

JSA 神奈川支部通信

No. 10 October 2024 日本科学者会議神奈川支部 発行

事務局長：☎230-0071 横浜市鶴見区駒岡 3-30-G-408 飯岡ひろし

HP：https://jsa-kanagawa.jp、携帯電話 080-1987-0994、E-mail：jsa.kanagawa(at)gmail.com

年会費 10800 円、院生・読者 5400 円 ゆうちょ銀行振替口座 0280-1-12774 日本科学者会議神奈川支部

この号の目次

- ◆ JSA かながわ第 60 回大会記念講演・研究交流会 神奈川支部幹事会
- ◆ 第 25 回総合学術研究集会：平和で豊かな地球を子や孫に伝えるために 25 総学実行委員会
- ◆ 原水爆禁止世界大会 2024 年科学者集会に参加して 飯岡宏之
- ◆ 栄区九条の会が学習会「人権から捉えた気候変動問題」を開催 後藤仁敏
- ◆ 平和で明るい県政をつくる会が防災・減災学習会を開催 後藤仁敏
- ◆ 市民のための横浜市政を進めるシンポジウムで杉並区の経験を学ぶ 後藤仁敏
- ◆ 『シン教育のすすめ』 鈴木秀顕
- ◆ 九条かながわの会、かながわ女性九条の会などが終戦記念日に桜木町宣伝 後藤仁敏

JSA かながわ(日本科学者会議神奈川支部)第 60 回大会記念講演・研究交流会
「核兵器廃絶への科学史、科学者そして市民の責任—『原爆の父』オッペンハイマー その
“栄光と没落”から考える」

JSA 神奈川支部幹事会

JSA かながわ支部（日本科学者会議神奈川支部）は今年 5 月、第 60 回の定期大会をむかえました。大会ではこれを記念し「秋の研究交流会」を開催します。記念講演のテーマは「核兵器廃絶への科学史、科学者そして市民の責任」です。参加費は無料（カンパをお願いする場合があります）です。

映画『オッペンハイマー』は、アメリカでは若者をおもに支持されましたが、日本ではその評価に賛否がありました。日本でもアカデミー受賞をしたこともあっていまでも各地で上映されています。オッペンハイマーは原爆を開発した物理学者として有名ですが、その後、水爆の開発に反対しつづけ、核戦争の危機が現実味をおびるなか、ソ連のスパイという濡れ衣をきせられ、学術界から追放されてしまいます。このことは案外、知られていません。いま、ウクライナ侵攻で核兵器の使用がいわれるなか、科学者そして市民の責任を考えます。会場の定員は 70 人ですので、先着順になります。この



参加申込

フォームからの記入をお願い

します。なお、終了後、有志による懇親会を行います。

日時：2024 年 10 月 19 日（土）

開場 13:00 開会 13:30 終了 16:30 ごろ

記念講演：13:30～14:30、研究交流会：14:40～

16:30、終了後、有志による懇親会

会場：かながわ労働プラザ

アクセス：JR 石川町駅徒歩 10 分、市営地下鉄伊勢

佐木長者町駅徒歩 12 分



記念講演：山崎正勝（東京工業大学名誉教授）

「核兵器廃絶への科学史、科学者そして市民の責任－『原爆の父』オッペンハイマー その“栄光と没落”から考える」



講師紹介：1944年10月生まれ、物理学者、科学史家、理学博士。専門は科学史、社会科学史、物理学史。1996年に翻訳書『アインシュタイン』（岩波書店）で産経児童出版文化賞を共同受賞、2012年『日本の核開発：1939～1955－原爆から原子力へ』（績文堂）で科学ジャーナリスト賞を受賞、2021年8月7日初回放送NHK ETV特集『日本の原爆開発～未公開書簡が明かす仁科芳雄の軌跡～』、2023年『証言と

検証 福島事故後の原子力 あれから変わったもの、変わらなかったもの』山崎正勝・舘野淳・鈴木達治郎編（あけび書房）、学習の友 2024年7月号『オッペンハイマーと阻止できなかった核開発競争』など著書多数。

研究交流会：話題提供（発表者とテーマは予定） 14:40～16:30

- ① 有機フッ素化合物(PFAS)とは何か 惣田晃夫（静岡理工科大学元教授）
- ② 気象変動と海洋環境 中野 広（元水産総合研究センター）
- ③ 『図説 歯からみた生物の進化』の苦労ばなし 後藤仁敏（鶴見大学名誉教授）
- ④ 2つの苦難（自宅を襲った土砂災害・つれあいの脳内出血）は乗り越えられるか

北山宏之（神奈川県民間懇）

問合せ：jsa.kanagawa(at)gmail.com at を@にして送信してください

第25回総合学術研究集会：平和で豊かな地球を子や孫に伝えるために

第25回総合学習研究集会実行委員会

全体企画：11月23日（土）開会式・基調講演・全体集会①

12月8日（日）全体集会②・閉会式

分科会

A 戦争のない平和な時代を拓く

【A1】平和問題分科会 12月7日（土）13:00--18:15

【A2】九条改憲の動向の多角的検討 12月8日（日）9:30--12:00

【A3】米日のグローバルパートナーシップの構築と世界の戦争に抗する平和の理論と運動を語ろう 2024年12月1日（日）15:45--18:15

B 地球環境の危機的状況の克服、原発問題の解決、防災・減災、災害復興

【B1】PFAS（有機フッ素化合物）汚染を考える 11月24日（日）15:45--21:00

【B2】気候危機に立ち向かう－自然エネルギーと省エネの社会に向けて 11月30日（土）13:00--18:15

【B3】脱原発への課題と展望 11月24日（日）9:30--12:00

【B4】地域社会から考える能登半島地震復興 12月1日（日）9:30--12:00

【B5】リニア中央新幹線問題の検討と運動・経験交流（part 8） 11月30日（土）13:00--21:00

【B6】風力発電の課題を考える 11月30日(土) 9:30--12:00

C 人間らしい労働、暮らしを守る経済、地域社会の再生

【C1】群馬県に居住する外国人が抱える諸問題—多文化共生社会・移民社会の実現可能性 12月7日(土) 9:30--12:00

【C2】新型コロナウイルス感染症の現状と今後に向けての課題 12月7日(土) 18:30--21:00

【C3】全国一律の最低賃金1500円をめざして 11月24日(日) 13:00--15:30

【C4】高齢者福祉の現状とこれから～介護福祉学への展望 12月1日(日) 13:00--15:30

D 科学・技術の現状批判と課題

【D1】科学技術の現状批判—日本の科学・技術の健全な発展のための課題 part16 12月1日(日) 13:00--18:15

【D2】科学・技術サロン—日本の科学・技術の現状とロマンを語る part 17— 12月7日(土) 15:45--21:00

【D3】自然科学の進展を俯瞰する III 11月30日(土) 9:30--12:00

E 学術研究体制の危機と大学・研究機関、研究者の権利・社会的責任

【E1】いま改めて研究者の権利・地位と倫理を考える 11月30日(土) 15:45--18:15

【E2】高等教育政策の現状分析とその改革の方向性 11月24日(日) 13:00--15:30

【E3】高等教育「無償化」の現在地—誰もが安心して学び続けられる社会に 12月1日(日) 9:30--12:00

F 個人の尊厳、ジェンダー平等、多様性の尊重

【F1】フェミニスト・エスニック・スタディーズと DEI (Diversity, Equity, and Inclusion) : 平和に必須の多様性と公平性と包摂 12月7日(土) 13:00--15:30

【F2】不登校・社会的ひきこもり 12月1日(日) 15:45--18:15

【F3】学習権を問う～様々な学びからの検討 12月1日(日) 18:30--21:00

G 市民社会その他

【G1】市民と科学者を結ぶ雑誌『日本の科学者』の歴史的役割と展望 12月8日(日) 9:30--12:00

【G2】二次元から「世相」をつむぐ 12月7日(土) 13:00--18:15

【G3】転換期の主体としての地域、地域住民を考える～その自由な学習と個性、主体性のあり方を問う 11月30日(土) 13:00--15:30

【G4】アメリカの現状と今後を考える 12月7日(土) 13:00--18:15

25 総学 日程概要 (企画の都合で一部変更となる場合もあります)

月/日(曜日)	9:30~12:00	13:00~15:30	15:45~18:15	18:30~20:00
11/23(土)		開会式・基調講演・全体集会①		
11/24(日)	B3 分科会	C4・E2 分科会	B1 分科会	
11/30(土)	B6・D3 分科会	B2・B5・G3 分科会	B2・B5・E1 分科会	B5 分科会
12/1(日)	B4・E3 分科会	D1 分科会	A3・D1・F2 分科会	F3 分科会
12/7(土)	C1 分科会	A1・F1・G2・G4 分科会	A1・D2・G2・G4 分科会	C2・D2・G4 分科会
12/8(日)	A2・G1 分科会	全体集会②・閉会式		

今後のスケジュール：

9月30日 分科会設置責任者から実行委員会への予稿原稿提出期限

10月10日 3rd サーキュラー発行(プログラム発表、参加登録呼びかけ)

10月13日～26日 分科会設置責任者対象のZoom 体験会(希望者)

10月31日 予稿集PDF版のダウンロード方法を参加登録者に連絡

11月1日 予稿集 PDF 版のアップロード

11月1日～15日 分科会単位で予行演習、全体会予行演習

11月23日～12月8日 25 総学開催

原水爆禁止 2024 年世界大会科学者集会に参加して

飯岡宏之

『原水爆禁止 2024 年世界大会科学者集会』は「ビキニ被災 70 年から被爆 80 年へ——核兵器禁止条約への日本政府の参加を求めて」をテーマに 7 月 27 日（土）の午後からオンライン併用で静岡大学静岡キャンパスにて開催されました。筆者は原水爆大会にはいつも参加者を送り出すがわでしたが、今回はじめて静岡駅にちかい静岡大学におもむきました。ことしは、太平洋のビキニ環礁でアメリカの水爆実験によって、1954 年 3 月、焼津を母港としたマグロ漁船の『第五福竜丸』が被曝した事件から、70 年になります。

第五福竜丸は知らされていた危険水域の外にあって、被曝することなど想定しないまま、水爆の放射線と死の灰をうけて母港に帰還しました。第 5 福竜丸の乗組員 23 名のうち、無線長久保山愛吉さんは半年後の 9 月 23 日、東京都の国立東京第一病院（現国立国際医療研究センター）で再生不良性貧血と診断され死亡しています。水爆実験ではビキニ環礁もふくめ、多くの漁船とその船員が被曝していますが、実験を行ったアメリカがいち早く調査をしたことから、データは秘匿され長く明らかにされませんでした。

この科学者集会では「第五福竜丸のビキニ被災の実相を確認するとともに、原水爆禁止運動の当面の課題である「核兵器禁止条約への日本政府の参加」を実現する道を探って」行くことを目的に、はじめに静岡大学生 2 人が東京にある第五福竜丸展示館を訪れ、学芸員とともにその事実について学ぶというビデオを上映しました（ゴミの島に、うち捨てられた第五福竜丸があるのは都民の保存運動が切欠です）。

講演は①ビキニ水爆実験被災の現代的意味と課題、隠され続けるグローバルヒパクシャ/隠され続ける核被災文書（高橋博子 奈良大学文学部教授）②ビキニで被災した漁船員被害の広がりとその後の調査（間間 元 静岡県保険医協会/生協きたはま診療所）③ビキニ被災 70 年から被爆 80 年へ～非核日本キャンペーンの意義（木藤 功 原水爆禁止静岡県協議会理事長）がそれぞれお話しされました。最後に講演者による総合討論が行われました。高橋さんは自らアメリカ公文書館で水爆実験にいたる行政文書を発見した経過、また、久保山さんの病理解剖などの情報を入手していたことなど、にふれながら日本政府がこの非人道的な被害の追求に最後まで後ろ向きだったことを明らかにしました。間間さんは、被爆者の漁船員の健康調査を長年つづけている医師です。被爆者の健康調査は困難なものですが、その蓄積から被害はむしろ広がっていること、今後も調査を継続する重要性を強調されました。「ビキニ事件は忘れ去られたのではなく、忘れることを要求された」という発言は印象的でした。このような「ビキニ事件から 70 年、被曝 80 年へ」という今年の科学者集会では、日本が核禁止協約に参加する機会とするべく、新しい署名運動男をはじめたと木藤さんはまとめられました。

筆者は、1955 年生まれですから、太平洋の島々での核実験による死の灰が、日本にふりそそいだ時に幼児期を過ごしています。地球科学者の猿橋勝子さん（当時、中央气象台に勤務）はビキニ事件の死の灰の影響を調査するため、自分で極微量拡散分析装置まで開発し、水産庁の調査船によるキニ海域の汚染データをふまえながら、海流によって日本近海が米国沿岸より数十倍も汚染されていることを明らかにしました。指導を受けた三宅泰雄（第五福竜丸の船体の保存にも尽力）とともに核実験の危険性をうったえ続けました。猿橋は、女性科学者を表彰する『猿橋賞』を設立し、その受賞者は各界で活躍しています。

2024年7月27日、栄区九条の会、上郷九条の会、九条の会未来の共催で、学習会「人権から捉える気候変動問題」があーすぷらざ会議室で開催され、41名が参加しました。

学習会は司会の私の進行で進められ、まず講師の山本大貴さんを紹介しました。山本さんは2003年生まれの20歳で、慶応義塾大学総合政策学部の学生でありながら、気候危機を訴えるドキュメンタリー映画を製作する「record 1.5」の共同代表も務めています。



図1 講演する山本大貴さん

山本さんはスライドを使用しつつ以下のように話しました（図1）。高校1年生から2年生になる時に、スウェーデンの環境活動家のグレタ・トゥンベリさんのFriday For Futureの運動に参加するようになった。現在は、慶応大学の学生でありながら、「record 1.5」の共同代表、グリンピース・ジャパンの政策渉外アシスタントを務めている。

初めに、気候危機の実態と被害予測について述べる。IPCC（気候変動に関する政府間パネル）第6次評価報告書によれば、人間活動が温暖化の原因であることは疑う余地がないとされ、今のままの化石燃料依存型の発展の下で気候政策を導入しなければ、1850年から1900年を基準とした2081年から2100年までの世界平均気温は最大5.7℃上昇すると予測されている。1.5℃の上昇では48cmの海面上昇が起り4600万人が移動する必要性が生じ、2.0℃では56cmで、3.0℃では7mで、4.0℃では9m上昇して4.7～7.6億人が危険になる。気温上昇は、温室効果ガス増加が地球全体の気温を上昇させ、気温上昇で永久凍土が融け、融けた土などの有機物が腐敗してCO₂やメタンが排出され、大気中のCO₂とメタンが増加することでさらに気温が上昇するというフィードバックループで加速される。

これを防ぐために、2015年のCOP21で、世界の平均気温上昇を産業革命以前に比べて2℃より十分低く保ち、1.5℃に抑える努力をするというパリ協定が採択された。しかし、2050年カーボンニュートラル（ゼロ）では間に合わない可能性もあり、今起こす行動が100年後の未来を決定する。1.5℃目標達成には、温室効果ガス排出量ゼロは全ての部門における大幅な削減によって実現する。日本は、2030年までに2013年比で46%削減としているが、2013年は東日本大震災の直後で排出量の多い年を基準にしており、他国と比べて十分な削減とは言えず、環境NGOなどから批判されている。

日本のCO₂排出源は、ほとんどが火力発電、工場、自動車や飛行機などで、エネルギー転換部門（発電）の脱炭素が排出削減のカギとなっている。多くの分野で電化を進め、そのエネルギー源を「再エネ（再生可能エネルギー）」にしていく必要がある。

政府は2002年に「エネルギー政策基本法」成立させ、3年に1度の検討、見直しを行うとしているが、2030年度の電源構成予測では化石燃料の割合が41%もあり、なかでもLNG（液化天然ガス）の倍以上のCO₂を出す石炭火力の割合が高い。石炭火力では水素・アンモニア混焼の「新技術」で効率をよくすると言うが、水素・アンモニアは化石燃料から作られているため生成時に大量のCO₂を排出する。炭素を地中深くに埋めるCCSという技術も、地震国では危険でコストが高い。また、原子力発電は気候対策にはならない。

一方、再エネ100%は実現可能で、もっとも安い技術で、太陽光は即戦力になり、陸上・洋上の風力は長期的な主電源になり、経済を活性化させる。省エネも重要で、断念などの構造的な省エネ

で日本のエネルギー消費は約半分にできる可能性がある。

次に、立ちあがる市民・気候正義について述べる。世界の50%の貧しい人びとの排出量は全体の10%にすぎないのに、最も裕福な富裕層10%は個人消費による温室効果ガスの約半分を排出している。気候危機の問題の本質は人権侵害だ。気候危機は、格差構造から恩恵を受ける人びとによるそうでない人びとへの静かな暴力となっている。解決するためには気候正義が必要だ。

「環境に良い商品」などの広告での「グリーンウォッシュ」を許してはいけない。グレタ・トゥンベリは「気候のためのストライキ」をはじめ、それに共鳴した若者が“Fridays For Future”という気候ムーブメントを広げた。2021年4月には温室効果ガス削減目標の大幅引き上げを求める学校ストライキも実施された。2022年にエジプトで開かれたCOP27には197の国と機関が参加した。record 1.5では動画「COP27 ドキュメンタリー 気候危機が叫ぶ」を作成し、YouTubeで6章に分けて公開している。その一部をお見せするが、是非、見ていただきたい。

その後、質疑応答があり、再生可能エネルギー、原子力発電、自分は何ができるか、食糧問題から戦争まで、たくさんの質問に山本さんは丁寧に答えました。また、九条かながわの会事務局共同代表の岡田尚さんも挨拶されました。最後に、日隈好恵代表が閉会の挨拶をされました(図2)。

山本さんの活動へのカンパを呼びかけたところ、29250円が集まり、山本さんにお渡しできました。2000円以上のカンパをされた方には、山本さんから「COP27 ドキュメント 気候危機が叫ぶ」という冊子が渡されました。また、『気候危機を打開する2030戦略』のパンフレットも22部販売されました。

学習会後に開かれた山本さんを囲んだ反省会にも11名の方々が参加され、懇親を深めました。「不要な外出はさけるように」との警告が出される酷暑の中の開催でしたが、熱心に講演された山本大貴さん、準備された栄区九条の会のスタッフの方々、参加された皆さんに深く感謝します。



図2 山本大貴さんと日隈好恵代表

平和で明るい県政をつくる会が防災・減災学習会を開催

後藤仁敏

2024年8月20日、本誌部も構成団体に参加する平和で明るい県政をつくる会が、防災・減災学習会を開催しました。初めに、新日本婦人の会の田中由美子県本部長が、「地震が続いており、防災・減災についてしっかり学びましょう」と開会挨拶をしました(図1)。

ついで、神戸大学名誉教授の室崎益輝さんが「減災社会と被災者支援—能登半島地震に学ぶ」と題して、ズームで以下のように講演しました(図2)。

1月1日の能登半島地震は、凶暴な自然と脆弱な社会が複合した「天災と人災の両面をもつ災害で、その教訓を明らかにして、これからの減災社会のあるべき方向を示したい。

能登半島地震は内陸地震としては最大級のMj7.6の大規模な地震で、最大震度7の長時間の振動に加え、半島北部が最大4m隆起し、西へ1m移動した。

輪島・珠洲、七尾、能登、穴水、志賀の3市3町は、過疎化、人口減、高齢化が著しく、この10



図1 田中由美子さんの開会挨拶

年で人口が2割減り、65歳以上は5割を占め、高齢者のみの世帯が4割、年収300万円以下の世帯が3割である。木造の住宅が8割、80年以前の住宅が5～6割である。

直接被害では、前例のない地震が前例のない被害をもたらした。津波、家屋倒壊、地盤隆起、側方流動、液状化、土砂崩れ、火災など、あらゆる破壊現象が発生した。石川県全域で建物被害は8万棟以上、うち5800棟が全壊であった。直接死が229人だが、圧死だけでなく低体温症の犠牲もあった。

間接被害では、7月末で指定避難所になお1400人が住み、解体申請24000棟のうち解体完了は約1500棟、広域避難が無秩序に進んで被災者は糸の切れた風状態、関連死は7月末で70人に及ぶ。被災者の劣悪な環境が半年たっても改善されていない。

初動対応は、道路の寸断で支援部隊が現地に入らず、オペレーションが機能不全で被災状況の把握が著しく遅れ、救命と救助に応える人材と資材を72時間以内に持ち込めなかった。

応急対応では、ボランティアが不足し、圏外への二次避難が被災者の苦悩を加速し、仮設住宅は1～1.5万人が希望しているのに7月末までに5265戸しか完成していない。

2月1日に復興対策本部が設置されたが、復興計画の全体像は見えにくく、被災地をあげて復興に取り組もうとする状況に至っていない。

地震、豪雨、感染症など巨大で複合的な災害の時代を迎えているのに、社会が脆弱化していて、災害が激甚化している。公衆衛生、連携協働、個別対応、最悪想定、地力醸成に取り組み必要がある。

自然の凶暴化は制御できなくても、社会の脆弱化は制御可能で、災害に強い国土、社会、人間、自治体、コミュニティをつくる必要がある。減災科学や減災対策を進化させよう。人間の命や暮らしが守られる復興、地域密着型で市民主導型の防災、被災者の自立を育むための体制や環境の整備をはかることが重要だ。

次いで、井坂新哉県議が「神奈川県における減災・防災の取り組みと課題」について、次のように報告しました（図3）。

県は「神奈川県地域防災計画～地震災害対策計画」を作成しているが、これで十分であろうか。住民に直接関係する対応は市町村が中心で行なっており、県内市町村の広域な連携、他県や国との連絡などは県の役割となっている。

防災・減殺の取り組みには、がけ地対策、河川対策があるが、時間がかかり、国の補助金が少ないので、県単事業の予算増が必要だ。福祉避難所の広域連携について知事に質問し、「しっかり検討していく」との回答を得ている。

その後、質疑応答があり、最後に代表委員の私が、室崎・井坂両氏へのお礼を述べて閉会となりました。



図2 講演する室崎益輝さん



図3 報告する井坂新哉さん

市民のための横浜市政を進めるシンポジウムで杉並区の経験を学ぶ

後藤仁敏

迷走する台風10号の影響をはねのけて2024年9月1日、市民のための横浜市政を進める会が、市民のための横浜市政を進めるシンポジウムを、横浜市開港記念会館で100名以上の参加で開催しました。最初に代表世話人の岡田尚氏が「市長選まであと1年、今日は杉並区の実践から学ぼう」

と主催者挨拶しました。

ついで、横浜港ハーバーリゾート協会会長の藤木幸夫氏が「横浜港はアメリカのジャーナル・オブ・コマースが世界1位にランクするような素晴らしい港です。山中さんはよく市長になってくれました。どうかよろしくお願いいたします」と来賓挨拶しました（図1）。

山中竹春市長による20分間の次のようなビデオメッセージが紹介されました（図2）。「市民目線で、子育て支援について切れ目のない政策を実現してきた。昨年8月から小児医療費を中3まで無償化し、26年4月から中学校給食全員に届けられるようになった。出産費用と妊婦検診への女性も開始する。65歳以上には6つのガン検診を無料化し、スマホで行政手続きができるようにDXを進めている。公約の実現のため、皆様の後押しをお願いします」。

内田聖子さん（杉並区長選選対部長、岸本聡子事務所事務局長）が「地域主権と公共の再生をめざして一杉並区長選と住民運動の経験」について、以下のように講演しました（図3）。

新自由主義により資本の活動が自由になる一方で、貧困と格差が拡大し、中間層が没落した。杉並区では山田宏区長時代につくる会系教科書が採用され、次の田中良区長は民主党の市長から保守化した。

2021年10月の衆院選で、東京8区で吉田はるみ氏（立憲民主党）が石原伸晃氏（自民党）を破って当選した勢いの乗り、2022年6月の区長選で岸本聡子氏を擁立し、4選を目指した田中良氏をわずか187票差で破って勝利した。

そして、23年4月の区議選では「区長は変わった、次は議会だ」と訴え、自公などの現職12人が落選、新人15人が当選、岸本与党が増え、半数を女性が占める結果となった。

岸本区長は、地域主権主義（ミュニシパリズム）を進め、政治のあり方を変革することで、権力を市民の手に委ねることをめざしている。公共サービスを再生し、参加型予算で住民の声を反映させ、気候区民会議やまちづくりのためのデザイン会議を進めている。議会だけでなく6000人の職員も変わりつつある。東京では、自治体の首長・議員・市民による「ローカルイニシアチブ・ネットワーク」が拡大している。

その後、質疑応答と、内田・岡田両氏に小児科医の藤田輪成さんを加えて、3氏によるシンポジウムが行なわれました（図4）。藤田氏は山中市長の「3つ（敬老パス・子どもの医療費・出産費用）のゼロ」の意義について、データに基づいて評価しました。

杉並区と横浜市は、規模は違いますが、同じ時代を過ごしてきた経過がよく分かり、「選挙は続くよどこまでも」を合言葉に、勝っても負けても、めげずに頑張ろうとの思いを噛みしめる集会となりました。



図1 来賓挨拶する藤木幸夫氏



図2 山中市長のメッセージ



図3 講演する内田聖子氏



図4 3氏によるシンポジウム

『シン教育のすすめ』

鈴木秀頭（松蔭大学／一般社団法人社会デザイン協会／株式会社 AI 教育ラボ）

「教育と社会動向は密接な関係にある」

このことを前提に、私は教育に携わっている。大学卒業後、会社員や企業経営者としての経験を積み、その後、教育の分野に進んだ。産業界での経験から、産学連携や産官学連携の推進にも関わってきた。その中で感じたのは、教育（特に学校教育）があまりにもブラックボックス化していることだった。産業界から教育界を眺めても、その動向が全く見えないという課題に直面したため、私は教育の世界に本格的に関わることを決意した。

教育の世界に本格的に携わるようになってから感じたのは、この世界が閉ざされたものであるということである。ここでいう「閉ざされた世界」とは、本来学習者が最大限恩恵を受けるべき教育が、教育者主導で進められていることを指す。産業界でも、生産者志向から消費者志向へ移行し始めたばかりで、その移行がまだ不十分であることを考えると、教育界でも同様の状況が続いているのは理解できる。しかし、教育界ではこの問題が十分に認識されていないことが、さらに大きな課題ではないだろうか。

産業界が生産者志向から消費者志向へ移行した背景には、社会が工業社会から情報社会へと移行したことがある。工業社会においては、3密（密集、密接、密閉）をいかに迅速に作り出し、それを展開するかが競争の鍵だった。しかし、コロナ禍を経て、この3密の優位性が打ち破られた。情報社会の特徴は、単に情報の流通量が増えるだけでなく、オープンなネットワーク化が容易になることである。このオープンネットワーク化された社会では、社会的価値（財）を共に創り出す「共創社会」が形成されつつある。

私が考える「シン教育」の根底には、工業社会・競争社会から情報社会・共創社会への移行に対応する必要があるという考えがある。産業界が生産者志向から消費者志向へと変わったように、教育界も教育者志向から学習者志向へと移行しなければならない。

この情報社会・共創社会の時代において、教育の目的は変わってくると考える。これまで教育の目的は、安全で便利な社会の中で自分を優位に立たせ、不老長寿に近づくための知識を得ることにあつたのではないだろうか。その結果、教育は「何かに勝つための手段」として認識されがちであり、その目標は理解しやすいものであった。

しかし、今後の社会では、何かに勝つための教育ではなく、共に協力して社会的価値（モノ・コト）を創り出すための教育が求められる。必要なのは、協力し合い、ネットワークを形成し、知恵を共有することである。そして、教育の目標は、「生きる」ことに加え、「楽しく幸福に生きる」こと、周囲から「ありがとう」を集めることが重要になってくるのではないだろうか。この新たな目標に対応するための教育が「シン教育」だと考えており、多くの方々と共にこの「シン教育」を形にしていきたいと思っている。

今回、字数の関係で序のみの報告となりましたが、今後の進展があれば改めてご報告させていただきます。また、一緒にこのテーマについて考えていきたいという方がいらっしゃれば、ぜひご連絡いただければ幸いです。

九条かながわの会、かながわ女性九条の会などが終戦記念日に桜木町宣伝

後藤仁敏（九条かながわの会事務局共同代表）

2024年8月15日の夕方、79回目の終戦記念日にあたり、桜木町駅前広場で、九条かながわの会、かながわ女性九条の会、神奈川のうたごえ、神奈川県平和委員会、日中友好協会神奈川県連合会など約50名が、9条を守りいかし、平和を呼びかける宣伝活動をしました（図1）。そのなかで、私が訴えたことは以下のとおりです。

桜木町駅前広場の皆さん、私たちは「九条かながわの会」です。今日は8月15日、79年目の

終戦記念日です。日本は戦後、79年間平和でしたが、この間も朝鮮戦争、ベトナム戦争、湾岸戦争、アフガニスタン、イラクでの戦争、そして現在のウクライナとガザでの戦争と、戦争が続いてきました。終戦記念日を迎えて、私たちはあらためて、ここで平和の尊さ、平和の礎となっている日本国憲法を守る大切さを訴えたいと思います。

許せないのは、ウクライナの戦争や中国の脅威を口実に、5年間で43兆円もの防衛予算を増やすとか、核兵器を含む抑止力を拡大すべきとか、敵基地攻撃能力を保有すべきとして、九州から沖縄、南西諸島の与那国島までの自衛隊基地をミサイルなどの武器で軍事要塞化し、台湾有事にそなえると主張している人びとです。私たちの横浜もその中に巻き込まれようとしています。ランドマークの先の瑞穂ふ頭、ノースドックに米軍揚陸艇部隊が配備され、座間の陸軍司令部、相模原補給廠、横須賀の海軍司令部と一体となって、戦闘車両や兵隊や武器弾薬を南西諸島に搬入する体制がつけられようとしています。

米軍揚陸艇部隊はまさに敵基地に先制攻撃をかける部隊で、戦争が始まれば最初に攻撃される危険性があります。私たちは横浜が79年前のような再び焼け野原になるのではないかと心配しています。

先の戦争で日本軍は2000万人の人びとを殺し、310万人以上の日本人が殺されました。その屍の上に、日本は二度と戦争はしない、武力は保持しないと誓い、憲法9条がつけられたことを忘れてはならないと思います。また、唯一の被爆国として、核兵器の恐ろしさを今こそ世界に示し、核兵器の廃絶を訴えるべきではないでしょうか。

政治資金パーティーによる裏金問題で岸田首相は9月の総裁選への出馬を見送りました。岸田首相は広島出身なのに被爆者の思いに背き、核兵器を含む抑止力の強化を主張し、大軍拡を進めました。4月の日米首脳会談では、統合作戦司令部、7月の2+2では統合軍司令部を創設すると合意しました。事実上、米軍の司令部が自衛隊の指揮をするというもので、国の主権を売り渡す行為です。

岸田首相は出馬取りやめの記者会見でもなお、未練がましく憲法を変えると主張していました。国会では改憲勢力が改憲発議に必要な3分の2以上を占めています。しかし、私たちは安倍改憲に続き、菅改憲も、そして岸田改憲も阻止することができました。これは、全国の7500といわれる九条の会が全国で草の根で改憲反対の運動を進めているからだと思います。

自民党は2005年と2012年に作成した改憲草案が、国防軍を保持し、表現の自由を制限して基本的人権を否定する、帝国憲法そっくりのあまりに古臭いものでした。これではとても国民投票で過半数の賛成は得られないとの判断で、安倍元首相は2017年に4項目にしぼった改憲案を発表しました。9条への自衛隊の明記、緊急事態条項、教育の充実、参議院の合区解消の4項目となっていますが、教育の充実はお飾りで、目的は9条への自衛隊明記と緊急事態条項です。

この4項目ですが、国際勝共連合、旧統一協会が作った組織ですが、2017年4月に「憲法改正について」と題した動画で、渡辺芳雄副会長が独自の改憲案を解説した内容と、安倍元首相が2017年5月に提案した改憲4項目と自衛隊明記と緊急事態条項の2項目が一致しているのです。安倍改憲4項目は勝共連合の改憲案だったのです。

自民党案では、現行の9条はそのままにしてその後、自衛のために実力組織としての自衛隊を明記するとしています。そうすると、前半の現行9条と後半部分は矛盾に満ちたものになります。



図1 九条かながわの会、かながわ女性九条の会、神奈川のうたごえなどによる終戦記念日桜木町宣伝

しかも、明記される自衛隊は、自公政権によって米国製の兵器を爆買いし続け、岸田政権は軍事費を5年以内にGDP比1%から2%、世界で9位からアメリカ・中国につぐ3位の軍事支出に増やそうとしています。今や自衛隊は、安民法制により個別的自衛権だけでなく集団的自衛権も行使し、敵基地攻撃能力の保有をめざす実力組織なのです。安倍元首相は「憲法違反と言われる自衛隊は可哀そうなので、憲法に明記する」と言いましたが、憲法に明記されることで自衛隊員が戦場に派遣され、米軍の司令官のもとで戦場に送られ、命の危険にさらされる方がよほど可哀そうではないでしょうか。

これまで憲法9条は自衛隊員が戦場に行くことを憲法違反とし、自衛隊員の命を守ってきました。9条に自衛隊が明記されて、自衛隊が自衛のための実力組織となることで、戦場に派遣され、他国の軍隊といっしょに闘うようになること、これは止めさせなければなりません。終戦記念日の今日、皆さんに是非とも、訴えたいと思います。

また、岸田政権は、コロナ禍を口実に緊急事態条項の必要性を強調していますが、いったん「緊急事態」を宣言すれば、首相の権限が強化され、国会を通さずに法律に代わる政令を制定できるようになり、国会議員の任期も無限に延長して選挙しなくてもかまわないというものです。麻生副総裁が語ったように「ナチスの手口に学んだ」もので、ナチスの全権委任法に匹敵するもので、独裁政権を樹立しようというものです。

このような4項目改憲をゆるさないため、「九条の会」は今こそその真価を発揮して、改憲反対の世論を大きくしなければなりません。そのために、私たちは、ここで宣伝活動をしております。皆様のご理解、ご協力をこころよりお願いします。

=====

行事案内

- ☆9月19日(木) 19:00～ **戦争法廃止、裏金政治を終わらせよう 9.19日比谷集会&デモ** 会場：日比谷野外音楽堂&銀座デモ オープニング:公園でChill 主催者&政党挨拶 ゲストスピーチ:有田芳生さん(ジャーナリスト) 銀座デモ 19:45～ 西幸門→鍛冶橋(約40分) 共催:戦争させない・9条壊すな!総がかり行動実行委員会、9条改憲NO!全国市民アクション
- ☆9月20日(金) 17:30～19:30 **マイナ保険証の問題点を考える～マイナンバーカードが保険証になったら何が起こる?** 会場:神奈川県弁護士会館 5階大会議室(事前申し込み不要、定員100名、先着順、みなとみらい線日本大通り駅1番出口徒歩2分) Web(Zoom ウェナビー)での参加は下記 url から申し込み下さい。 https://us06web.zoom.us/webinar/register/WN_CTiMQssLTy-ty6eS_hU0w#/registration 1 医療データの利活用とプライバシー保護 武藤糾明弁護士(福岡県弁護士会) 2 マイナ保険証の問題点と今後の展開 知念哲氏(神奈川県保険医協会事務局次長) 3 マイナ保険証に対する日弁連の取り組み 彦坂敏之弁護士(神奈川県弁護士会) 主催:神奈川県弁護士会 問合せ:総務会計課会計係 045-211-7704
- ☆9月20日(金) 18:00～ **第9回ジェンダー連続講座:離婚後共同親権 DV、虐待から被害当事者を守るために** 会場:日本共産党本部 2階多目的ホール(代々木駅徒歩5分) You Tube 限定配信あり 申込み:9月17日までに、電話 03-5474-8441、メール gender(at)jcp.or.jp に連絡ください。主催:日本共産党中央ジェンダー平等委員会
- ☆9月21日(土) 9:30～12:00 **かながわ市民連絡会全体会 zoom会議** 担当 司会:4区 後藤、書記:3区 議題:各区の報告、総選挙情報、意見交換など 問合せ:080-3402-3360 (内藤さん)
- ☆9月21日(土)、28日(土)、10月19日(土)、10月26日(土) 9:30～12:30 **日本体育大学法学研究室(清水雅彦)主催 憲法市民講座** 会場:日本体育大学横浜・健志台キャンパス百年記念館(1号館3階1301教室、10月26日は4階1402教室、東急田園都市線青葉台駅から東急バス日体大行き) 講師:清水雅彦(日本体育大学教授、憲法学) 費用は無料 参考文献:清水著『憲法入門』(大月書店) 問合せ:日本体育大学法学研究室(045-963-7941)
- ☆9月21日(土) 13:00～15:15 **学習会「アメリカ、ヨーロッパの労働者運動から学ぶ」** 会場:桜木町ぴおシティ 6階青少年交流・活動スペースミーティングルーム(桜木町駅徒歩3分) 資料

代 500 円 講師：宮前忠夫（国際労働問題研究者） 主催：かながわ産業労働調査センター 問合せ：045-662-9833

☆9月21日（土）13:30～16:30 **福祉国家構想研究会公開研究会 2024 能登半島地震の現場から問う！ 復旧・生活再建をめぐる対抗軸一蔑ろにされる被災者の命と暮らし** 会場：TKP 市ヶ谷カンファレンスセンター8F+web 報告1「被災地にみる人権と自治の課題ーいのちの保障なき日本社会の縮図」高林秀明さん（熊本学園大学教授）、報告2「なぜ進まない 被災地の救援・復旧・復興ー惨事便乗型復興政策 vs 「人間の復興」ー」岡田知弘さん（京都橘大学教授・京都大学名誉教授）、コーディネーター：後藤道夫さん（都留文科大学名誉教授） 申込み：<https://forms.gle/X3ZUg5LWPvuQyaV67> 9/19 17 時〆切

☆9月21日（土）14:30～16:30 **「ピース神奈川 10000 人アクション」体験交流会** 会場：かながわ県民センター301 会議室（90 名収容、横浜駅西口徒歩 5 分） 参加費無料 申込み先：相良（090-1691-7334）、井浦（090-8875-5270） 主催：ピース神奈川 10000 人アクション

☆9月25日（水）～29日（日）10:00～16:00（初日は午後から、最終日は午前中のみ） **第 19 回 多摩区平和のための原爆展** 会場：多摩区総合庁舎 1 階アトリウム（小田急線向ヶ丘遊園駅徒歩 5 分） 講演会：28 日 9 時 45 分～、多摩市民館第 6 会議室（JR 登戸駅徒歩 10 分） 山本緑（県原爆被災者の会）「ゴジラはなぜ海から現れたのか？」 主催：実行委員会 連絡先：044-328-5288（後藤さん）

☆9月26日（木）15:00～18:00 **『ヨコハマ市民自治を考える会』の定例会** 会場：かながわ県民センター706 号室（横浜駅西口徒歩 5 分） 市民自治に関心のある方は是非お越し下さい。問合せ：E メール kura335200@star.ocn.ne.jp（倉田） 参加費 300 円

☆9月27日（金）18:30～21:00 **座標塾第 20 期の第 4 回 グローバルサウスの現在ーフィリピンを例に** 講師：大橋成子さん（ピープルズ・プラン研究所） 参加費：1 回 1000 円（テオリア会員 500 円） 会場：文京区民センター（春日駅・後楽園駅；第 4 回以降予定）、またはオンライン＝要申込 第 4 回・会場受講申込 9 月 26 日まで。オンライン受講申込は 9 月 20 日まで。研究所テオリアの口座（下記）に参加費振込みください。参加費振込先：郵便振替 00180-5-567296 研究所テオリア

☆9月28日（土）10:00～12:00 **憲法 9 条を守る運動の緊急交流会** 会場：かながわ県民センター304 会議室（横浜駅西口徒歩 5 分） 問題提起：岡田尚共同代表 司会：高橋由美事務局長 呼びかけ：九条かながわの会（090-6371-3874、[article9\(at\)nifty.com](mailto:article9@nifty.com)）

☆9月28日（土）13:00～16:00 **第 11 回平和フェスティバル in さむかわ** 会場：シンコースポーツ寒川アリーナ（寒川総合体育館）3 階会議室（JR 寒川駅徒歩 13 分） 14 時～15 時、きたがわてつコンサート（定員 72 人） いわさきちひろ平和パネル展 入場無料 主催：実行委員会 問合せ：080-4959-5450（吉田さん）

☆9月28日（土）13:30～16:00 **どうして戦争しちゃいけないの？** 会場：横浜上野町教会（JR 山手駅徒歩 12 分） 参加費 900 円、学生無料 講師：ダニー・ネフセタイさん（元イスラエル軍兵士） 主催：本牧・山手九条の会 問合せ：045-741-3195（横浜建設一般労組気付）

☆9月28日（土）14:30～ **平和のつどい** 会場：山内地区センター3 階ホール（地下鉄あざみの駅徒歩 3 分） お話：「米軍ジェット機墜落事件と 47 年目の今」斎藤淑子元県議 みんなで歌おう 原水禁世界大会報告など 参加費 500 円、学生無料 主催：実行委員会 問合せ：045-984-0468（塩野さん）

☆9月28日（土）13:00～29日（日）12:30 **第 69 回日本母親大会 in 和歌山** 28 日 13 時～16 時 30 分 全体会 記念講演：「第 5 福竜丸みんなの船～ビキニ水爆実験 70 年、世界のヒバクシャとともに核兵器なき地球を」 講師：安田和也さん（東京都立第五福竜丸展示館学芸員） オープニング・文化行事、運動交流（和歌山・全国）、エールの交歓など多彩な催し 会場：和歌山県民文化会館・大ホール（和歌山県和歌山市） 29 日 9 時 30 分～12 時 30 分 分科会 会場：和歌山城ホール／プラザホープ／ビッグ愛（和歌山県和歌山市） 「子どもと教育」、「くらし、権利、労働」、「平和と民主主義」、「ジェンダー平等社会の実現」など、さまざまな問題をテーマ別に話し合います。物産展、母親売店・書籍バザールを計画しています。大会参加には（現地・オ

ンライン共に)、協力会員券(有料)が必要です。申し込みは、各県母親大会実行委員会へ 主催:第69回日本母親大会実行委員会(東京都千代田区二番町12-1 全国教育文化会館内 TEL 03-3230-1836 FAX 03-3230-1837) 開催:和歌山県母親大会実行委員会 協力:近畿ブロック各県実行委員会(滋賀・京都・奈良・大阪・兵庫)

☆9月28日(土)13:30~ 第59回中国映画を観る会 会場:戸塚区役所多目的スペース(中)(JR戸塚駅徒歩2分) 作品「雲南の少女 ルオマの初恋」 資料代500円 主催:日中友好協会横浜西南支部 問合せ:080-5081-6522(大幡さん)

☆9月28日(土)15:00~17:00 取り戻せ!テレビを市民の手に NHKとメディアの今を考える会 連続シンポジウム~視聴者運動の現状&独立行政委員会制度の提案 第1回:民放の改革迫る新しい市民運動~テレビ輝け!市民ネットワーク 会場:立教大学池袋キャンパス7号館7102教(池袋西口駅徒歩7分) パネリスト:前川喜平(現代教育行政研究会代表)、杉浦ひとみ(弁護士)、砂川浩慶(兼司会、立教大学社会学部教授) リアル参加 資料代800円(学生無料) オンライン視聴申込み:800円 <https://peatix.com/event/4054432/> 後日録画配信の予定 主催:NHKとメディアの今を考える会 + 立教大学社会学部メディア社会学科・砂川ゼミ 共催:日本ジャーナリスト会議、日本ジャーナリスト会議・東海、放送を語る会、メディアを考える市民の会ぎふ 問合せ:090-8955-6050(丹原)

☆9月29日(日)10:00~12:00 共に学ぶ第33回市民教養講座(2024.No.2)サメの歯化石の魅力と不思議 会場:旧若葉台西中学校北棟1階木工室(JR横浜線十日市場駅からバス若葉台中央行きで長津田南下車すぐ) 資料代300円、小・中学生無料 申込み:定員50人、名前と住所、電話番号をメールかFaxでお知らせください。wakabadaispl(at)yahoo.co.jp 045-921-0404(VOSV) 主催:電子顕微鏡でミクロを観る会(VOSC)

☆9月29日(日)10:00~15:00 神奈川県平和委員会第66回大会と70周年レセプション 会場:ワークピア横浜(日本大通り駅3番出口徒歩5分) 定期大会:10時~ レセプション:16時~18時 会費7000円 申込み:9月20日までに名前、連絡先などを、電話045-231-0103、Fax045-261-6577、メールinfo(at)k-peace.orgに連絡ください。主催:神奈川県平和委員会

☆9月29日(日)13:30~16:00 平和をねがう講演と音楽のつどい「平和に生きる権利は国境を超える」 会場:茅ヶ崎市民文化会館小ホール 音楽:きたがわてつさん 講演:清末愛砂さん(室蘭工業大学教授) チケット:前売500円、当日700円、大学生以下無料 予約・問合せ先:chigasaki9jou@gmail.com、宮澤(0467-85-7182) 主催:九条の会・ちがさき

☆10月3日(木)18:30~ 琉球弧を再び戦場にさせない! 沖縄・与那国島はいま…10.3 横浜集会 沖縄・うるまからの訴え 照屋寛行之さん(ミサイル配備から命を守るうるま市民の会、うるま市島ぐるみ会議共同代表) 報告:与那国島はいま 大仲 尊さん(与那国島出身、沖縄・一坪反戦地主会関東ブロック) 会場:横浜市技能文化会館2階多目的ホール(JR関内駅南口徒歩7分、地下鉄伊勢佐木長者町駅徒歩3分) 資料代800円(学生無料) 主催:島ぐるみ会議と神奈川を結ぶ会 協賛:神奈川平和運動センターほか 問合せ:090-4822-4798(深沢)

☆10月5日(土)14:00~ 沖縄戦首都圏の会第17回総会・記念講演会 会場:文京シビックセンター4階シルバーホール(地下鉄後楽園駅徒歩3分) 記念講演:上里清美さん(ミサイル基地いらない宮古島住民連絡会共同代表)「宮古島で何が起きているのか 増強される自衛隊一島を“護る”とは島が戦場になること」 事務局から:この1年雄活動報告と今後の行動提起 資料代:会員無料、会員でない方500円 主催:沖縄戦の史実歪曲を許さず沖縄の真実を広める首都圏の会 問合せ:080-5874-0724(事務局)

☆10月5日(土)14:30~16:40 神奈川県職員九条の会「平和の集い」 会場:横浜市開港記念会館2階6号室(みなとみらい線日本大通り駅徒歩2分) 講演:「軍拡・改憲の新局面と私たちの課題」渡辺治(一橋大学名誉教授) 参加費500円 申込み:県職員九条の会(f.kaseiwaki@gmail.com)

☆10月6日(日)①10:00~12:00、②13:30~15:30 映画「お終活🌸再春!」(脚本・監督 香月秀之)上映会 会場:横浜市西公会堂(横浜駅西口徒歩10分) 料金:一般・シニア1200円、小・中・高生800円 各会540名、全席自由、前売り・予約なし 主催:横浜上映実行委員会

問合せ：03-3758-8622（熊谷）

- ☆10月6日(日)13:30～16:00 **第20回横浜非核兵器平和都市宣言市民のつどい** 会場：かながわ県民センター2階ホール（横浜駅西口徒歩5分） 参加費 800円、高校生以下無料 講演：「核兵器禁止条約は希望のトーチ」山田寿則（明治大学兼任講師）、「核兵器禁止条約はヒバクシャ運動の“翼”」和田征子（横浜市原爆被災者の会会長） 報告：「高校生平和大使として」萩有彩（高校生）、「被爆地の外で伝える平和」本間のどか（KNOW NUKES TOKYO） 主催：実行委員会 問合せ：090-8726-5227（吉沢さん）
- ☆10月6日(日)17:30～20:00 **神奈川憲法アカデミア・シンポジウム：政府与党改憲方針の問題点** 会場：かながわ県民センターホール（横浜駅西口徒歩5分） 講師と論題：清水雅彦（日本体育大学教授）「実質改憲としての『安保3文書』とその先にある9条改憲」、永山茂樹（東海大学教授）「緊急事態条項創設改憲の2つの危険－議員任期延長改憲と緊急政令改憲」 コメンテーター：中西新太郎（横浜市立大学名誉教授） 司会・趣旨説明：山根徹也（横浜市立大学教授） 会場費無料（カンパをお願いします） 主催：神奈川憲法アカデミア（憲法改悪に反対する立場から講演会などのイベントを運営している神奈川県内の大学人有志の団体です） ブログ：<https://gakushakanagawaken.fc2.net> 連絡先：yamane@yokohama-cu.ac.jp（山根）
- ☆10月11日(金)12:30～13:30 **横浜ノースドックへの米軍揚陸艇部隊配備撤回を求める署名活動** 場所：JR桜木町駅付近 呼びかけ：横浜ノースドックへの米軍揚陸艇部隊配備反対連絡会（045-231-0103）
- ☆10月12日(土)13:30～15:30 **声を上げる10年目の福島～ドキュメンタリー映画「かくれキニシタン」と講演会** 講師：関久雄さん（監督） 会場：横浜磯子教会 主催 日本キリスト教団神奈川教区核問題小委員会 問合せ：atsusuke@bolero.plala.or.jp 080-3417-5591 核問題小委員長：小笠原敦輔 電話予約：090-2669-4219 久保博夫まで
- ☆10月12日(土)14:00～16:00 **日本の農業を考えるシンポジウム** 会場：秦野商工会議所会館4階（小田急線秦野駅北口からバス11、12、08系統でカルチャーパーク前下車徒歩3分） パネリスト：さいとう和子（元衆議院議員）、小松泰信（岡山大学名誉教授） コーディネーター：はたの君枝（前衆議院議員） 主催：日本共産党神奈川県委員会 問合せ：045-432-2101
- ☆10月13日(日)13:00～16:00 **国際友好姉妹都市の交流で横浜から平和の架け橋を** 会場：横浜市健康福祉センター4階ホール（桜木町駅徒歩8分） 参加費 1000円 講師：羽場久美子さん（青山学院大学名誉教授） 報告：横浜ノースドック基地強化反対・撤去署名運動 飛田久男（米軍部隊配備反対連絡会事務局長） 主催：実行委員会 共催：米軍部隊配備反対連絡会、神奈川県平和国際友好団体連絡会ほか 問合せ：045-573-8065、kanakazuo@yahoo.co.jp（革新懇横浜連絡会）
- ☆10月15日(火)18:00～20:00 **日中 Cafe 中国について楽しく学び、自由におしゃべりしましょう** 会場：かながわ県民センター707号室（横浜駅西口徒歩5分） 主催：日中友好協会神奈川県連合会 問合せ：080-7937-0638（小出さん）
- ☆10月19日(土)13:30～16:00 **日本科学者会議神奈川支部研究交流会** 会場：神奈川労働プラザ（JR石川町駅北口徒歩5分） 記念講演：山崎正勝さん（東京工業大学名誉教授）「核兵器廃絶と科学者の責任、市民の責任 『原爆の父』オッペンハイマー その“栄光と没落“から考える」 話題提供：① 有機フッ素化合物(PFAS)とは何か 惣田晃夫（静岡理工科大学元教授）、② 気象変動と海洋環境 中野 広（元水産総合研究センター）、③ 『図説 歯からみた生物の進化』の苦労ばなし 後藤仁敏（鶴見大学名誉教授）、④ 2つの苦難（自宅を襲った土砂災害・つれあいの脳内出血）は乗り越えられるか 北山宏之（神奈川民間懇） 連絡先：飯岡ひろし（携帯：080-1987-0994、E-mail：jsa.kanagawa(at)gmail.com）
- ☆10月19日(土)13:30～17:00 **第63回教科書を考えるシンポジウム 道徳の教科化と教科の道徳化** 会場：北とぴあ7階第2研修室（JR王子駅徒歩5分） 報告：新しい中学校道徳教科書を検討する（仮） 佐貫浩さん（法政大学名誉教授） 国語、家庭科、理科の教科書に見られる「道徳化」についての報告 協力金 800円 問合せ：子どもと教科書全国ネット21（03-3265-

7606)

- ☆10月20日(日) 13:30～ **学校に自由と人権を！10.20集会** 会場：日比谷図書文化館地下ホール(地下鉄霞が関駅C4またはB2出口徒歩3分) 講演「イスラエル軍元兵士が語る非戦論」ダニー・ネフセタイさん(家具作家・平和活動家) ライブ：それはきっと勘違い 辻村マリナさん(ミュージシャン) 特別報告：東京「君が代」裁判五次訴訟原告団・弁護団 当日資料代500円 主催：「日の丸・君が代」不当処分撤回を求める被処分者の会ほか 問合せ：090-5327-8318 (近藤)
- ☆10月23日(水) 18:00～19:30 **平和大会プレ企画：自衛隊名簿提出問題 第1部：自衛隊名簿提出問題の現状と課題** 講師：有田崇浩(日本平和委員会常任理事) 第2部：自治体・地域運動からの報告 申込み・問合せ：[https://gd/VhgD2.y.itayama\(at\)jichiroren.jp](https://gd/VhgD2.y.itayama(at)jichiroren.jp) (自治労連)
- ☆10月26日(土) 10:00～13:00 **第68回神奈川地学ハイキング・神奈川野尻湖友の会合同行事：多摩川台の古墳群と古墳展示室の見学** 集合：東急線多摩川駅改札付近に10時集合。横浜駅発9時34分の東急東横線急行和光市行きですと、9時51分に多摩川駅に着きます。内容：10時から11時過ぎまで多摩川台公園にある亀甲山古墳、8基の多摩川台古墳群、宝来山古墳を見たあと、11時過ぎから古墳展示室を見学します。昼食後解散の予定。雨天決行。案内：後藤仁敏(鶴見大学名誉教授) 参加費(保険料・資料代)：300円、交通費実費、古墳展示室の入場料は無料です。持ち物：筆記用具、昼食、水筒など。申込み・問合せ：090-7175-1911、[goto\(at\)kd5.sonet.ne.jp](mailto:goto(at)kd5.sonet.ne.jp)、資料の準備の都合上、参加希望者はメールか電話で事前に連絡をお願いします。主催：神奈川野尻湖友の会、地学団体研究会神奈川支部
- ☆10月26日(土) 14:00～16:00 **戦場にさせないー米軍指揮下の「沖縄と日本」 伊波洋一参議院議員(沖縄の風)講演会** 会場：川崎市労連会館(ろうきんビル)5階講堂(川崎駅東口および京急川崎駅徒歩10分) 講師：伊波洋一(参議院議員) 共催：ノースドック米軍配備反対ネットかわさき、戦争させない横浜市民ネットワーク 後援：神奈川県平和運動センター 問合せ：090-8113-2867(久利)、090-68818-1431(高梨)
- ☆11月8日(金) 12:30～13:30 **横浜ノースドックへの米軍揚陸艇部隊配備撤回を求める署名活動** 場所：東神奈川駅東口デッキ 呼びかけ：横浜ノースドックへの米軍揚陸艇部隊配備反対連絡会(045-231-0103)
- ☆11月10日(日) 9:40～ **第38回日中友好囲碁大会団体戦** 会場：日本棋院市ヶ谷本院(市ヶ谷駅徒歩2分) 主催：日本中国友好協会 問合せ：03-5839-2140 後援：日本棋院、中国大使館
- ☆11月10日(日) 14:00～16:00 **第95回草の根歯科勉強会 身体を媒介とした命との対話** 講師：中村安里氏(福井大学医学部卒業、京都大学総合生存学館博士課程在学中) 地球の健康と身体の問題、医療と病について、ホリスティック医学の観点から、健康と食、農、自然について、多角的な見方で講師とともに考えよう。会場：梨の木カフェ(10名まで、JR水道橋駅東口徒歩5分)とzoom開催 主催：草の根歯科研究会 問合せ：03-5340-9282、[yayoiokada\(at\)pcsu.mfnet.ne.jp](mailto:yayoiokada(at)pcsu.mfnet.ne.jp) (岡田)
- ☆11月19日(火) 18:00～20:00 **日中Cafe 中国について楽しく学び、自由におしゃべりしましょう** 会場：かながわ県民センター707号室(横浜駅西口徒歩5分) 主催：日中友好協会神奈川県連合会 問合せ：080-7937-0638(小出さん)
- ☆11月20日(水) 13:30～16:30 **天笠啓祐講演会 (Zoom併用) ジャーナリストとして50年言い続けてきたこと、言い続けるべきこと** 講師：天笠啓祐さん(ジャーナリスト) 司会：神野玲子 会場：東京ボランティアセンター会議室B(〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1 飯田橋セントラルプラザ10階、JR総武線・東京メトロ副都心線 飯田橋駅下車。飯田橋駅西口を出たら右へ。駅に寄り添うようにして建つ20階建てのビルが「セントラルプラザ」で10階へ。有楽町線・東西線・南北線・大江戸線 飯田橋駅下車。「B2b」出口よりセントラルプラザ1階に直結。低層階用エレベータで10階へ) 参加費500円(現地参加及びZoomとも) 後日期間限定の逃がし発信あります。Zoom参加の方は事前下記へお振込みください。郵便局からの送金の場合：口座番号10290-70860881 他行からの送金の場合：ゆうちょ銀行028店(ゼロニハチ)

普通 7086088 口座名義 神野玲子 Zoom の方は事前申込み：参加希望者名 必要事項明記の上 11 月 18 日までに申込みください。申込み先 E-mail jreikochoan@yahoo.co.jp 必要事項は名前、職業、電話番号、メールアドレス またはこちらから→<https://forms.gle/fcRvPfNYGUVbpo7Y6> アドレスに返信確認メール送ります。当日の詳細案内：ZOOM 参加申し込みされた方には 11 月 18 日ごろに ZOOM の URL 等案内します。主催：people21 <https://people21lshe.wixsite.com/people> 問合せ：神野玲子 E-mail jreikochoan@yahoo.co.jp 電話 090-2669-0413

☆11 月 23 日（土）～12 月 8 日（日） **第 25 回総合学術研究集会：平和で豊かな地球を子や孫に伝えるためにー市民として科学者として今、私たちにできること** 11 月 23 日（土）午後 開会式・基調講演・全体集会①、11 月 24 日（日）午前 B3 分科会、午後 C4・E2 分科会、B1 分科会、11 月 30 日（土）午前 B6・D3 分科会、午後 B2・B5・G3 分科会、B2・B5・E1 分科会、夜 B5 分科会、12 月 1 日（日）午前 B4・E3 分科会、午後 D1 分科会、A3・D1・F2 分科会、夜 F3 分科会、12 月 7 日（土）午前 C1 分科会、午後 A1・F1・G2・G4 分科会、A1・D2・G2・G4 分科会、夜 C2・D2・G4 分科会、12 月 8 日（日）午前 A2・G1 分科会、午後 全体集会②・閉会式 主催：実行委員会 委員長 松田正久（愛知支部）、副委員長 畑明郎（研究企画部長、滋賀支部）、事務局長 前田定孝（三重支部） 問合せ：25so-gaku@jsa.gr.jp

☆11 月 30 日（土）午後～12 月 1 日（日）午前 **地域・職場・青年革新懇全国交流会 in 京都 2024 「さよなら自民党政治の旗を高くかかげて 政治を大本から変える革新懇運動の出番」** 会場：京都テルサ 1 日目 13:30～17:00 全体会 会場：京都テルサ西館 1 階のテルサホール 来賓挨拶、ミニ講演（開催地の市民運動から、直近の政治情勢、夢洲万博中止のたたかい、ジェンダー平等をめざして）、基調報告、全国各地草の根と各分野からの発言 2 日目 9:00～12:00 分散会・分科会 会場：京都テルサ内各会場 分散会（地域からの共闘を交流）①職場分科会、②青年交流会、③ジェンダー分科会、④共闘と革新懇運動分科会 主催：全国革新懇 協力：京都革新懇 申込み・問合せ：全国革新懇（03-6447-4334）または都道府県革新懇

☆12 月 8 日（日）14:00～16:00 **第 96 回草の根歯科勉強会 憲法 1 条天皇条項を考えよう** 講師：堀内哲氏（自治体労働者・共和制研究） 会場：梨の木カフェ（10 名まで、JR 水道橋駅東口徒歩 5 分）と zoom 開催 参加費無料（コーヒー代 350 円希望者のみ）主催：草の根歯科研究会 問合せ：03-5340-9282、yayoiokada(at)pcsu.mfnet.ne.jp（岡田）

☆12 月 13 日（金）12:30～13:30 **横浜ノースドックへの米軍揚陸艇部隊配備撤回を求める署名活動** 場所：JR 桜木町駅付近 呼びかけ：横浜ノースドックへの米軍揚陸艇部隊配備反対連絡会（045-231-0103）

JSA 神奈川支部幹事会・発送作業

日時：10 月 19 日（土）11 時～12 時

会場：かながわ総研事務所（横浜市中区不老町 1-6-9 第 1HB ビル 5 階、1 階に「牡丹飯店」という中華料理屋のあるビルの 5 階です、JR 関内駅西口徒歩 3 分） 昼食後、12 時 50 分に労働プラザに集合して準備に当たります。

13 時 30 分～16 時 **日本科学者会議神奈川支部研究交流会**

会場：神奈川労働プラザ（JR 石川町駅北口徒歩 5 分）

連絡先：飯岡ひろし（携帯：080-1987-0994、E-mail：jsa.kanagawa(at)gmail.com）

次号の原稿の募集：近況、論説、報告、旅行記、論評、自著紹介、書評、その他、原稿をメールまたはファックスでお寄せください。毎月 10 日ごろの締め切り、15 日ごろの発送です。

送り先：後藤仁敏（E-mail：goto(at)kd5.so-net.ne.jp、Fax：045-894-1052）